

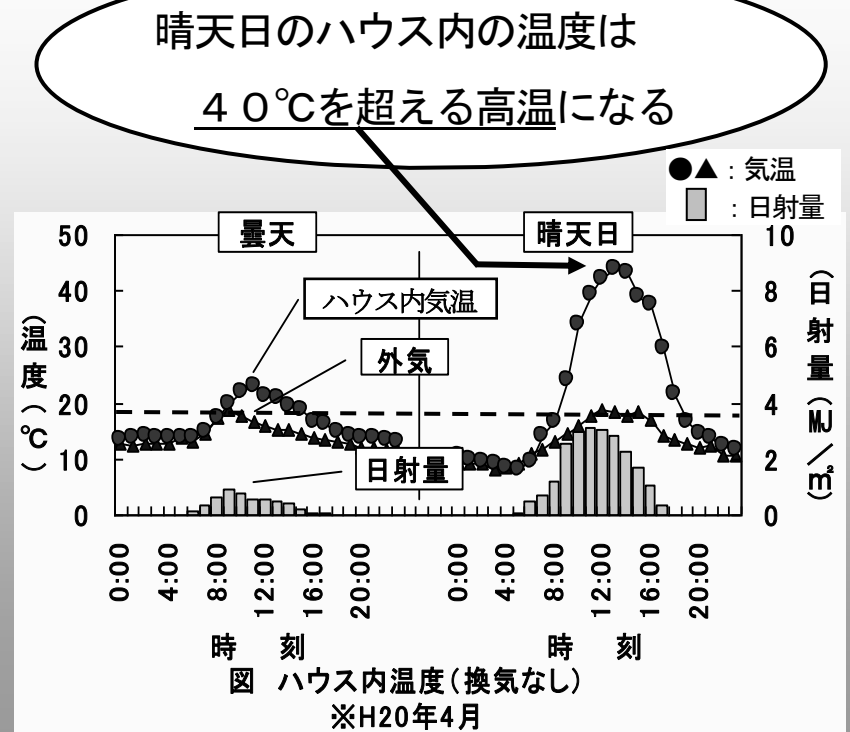
高品質のあおば米生産のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- 育苗ハウスの換気を徹底し、苗が軟弱徒長ぎみにならないよう注意する。
- 代かきは田植直前に行うとともに、除草剤は効果を高めるため、遅れずに散布する。
- 田植えは70株/坪で行い、初期生育の確保とあわせて初期分けつの発生を促す。

1. 硬化期の育苗管理

～換気を徹底して、健苗づくりに努める～

- 日中のハウス内の温度は20～25℃を目安に管理する。
(特に、晴天日は早朝から換気を行う)
- かん水は朝1回を原則としますが、床土の乾きに応じてかん水する。(かん水過多は根張りが悪くなりやすいので注意)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風の際はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意する。



2. 本田準備と病害虫防除

～田植えは代かきから5日以内に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生に大きく影響するので、耕起や代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
- 代かきは田植え予定日の3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行い、稲わらなどの埋没に努めるとともに、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

< 苗箱施薬 > ～除草剤を間違えて苗箱に散布しないよう注意しましょう～

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	散布量	散布時期
コシヒカリ てんたかく てんこもり など	いもち病、紋枯病、 イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、 フタオビコヤガ、 ニカメイチュウ、 ツマグロヨコバイなど	ルーチンブライト 箱粒剤	50g/箱 (1kgで苗箱 20枚分)	は種時(覆土前) ～移植当日

- ☆播種前に散布機を目盛を調整し、適量を散布しているか確認する。
- ☆育苗終了後のハウスで野菜を作付けする場合、薬剤散布はハウスの外に搬出してから行う。
(播種同時もしくはハウス内で散布した場合、ハウス内で栽培した野菜が吸収、残留する恐れがあります。)

3. 斑点米カメムシ対策(第2回)

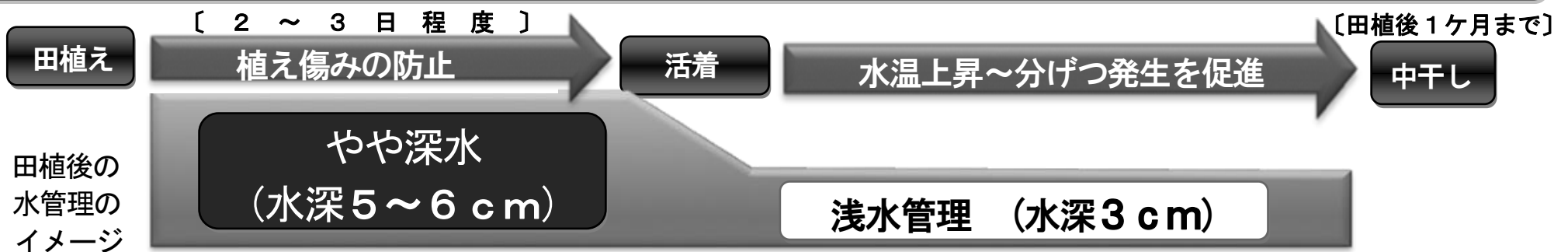
～斑点米カメムシが好む雑草を田植え前から減らす～

- 畦畔等の除草で、斑点米カメムシ類が好むイネ科雑草を減らしカメムシ類の密度を抑える。
- バスタ液剤やザクサ液剤などの除草剤を使用する場合、**田植え前までに**散布する。
※周辺の農用地や作物に飛散しないよう、散布方向・範囲に注意し、風の無いときに散布する。
- 除草剤を使用しない場合、**イネ科雑草が穂を出さないよう**、こまめに草刈りをする。

4. 田植えと水管理

～初期分けつ確保には「適切な植付け」と「適正な水管理」が必要～

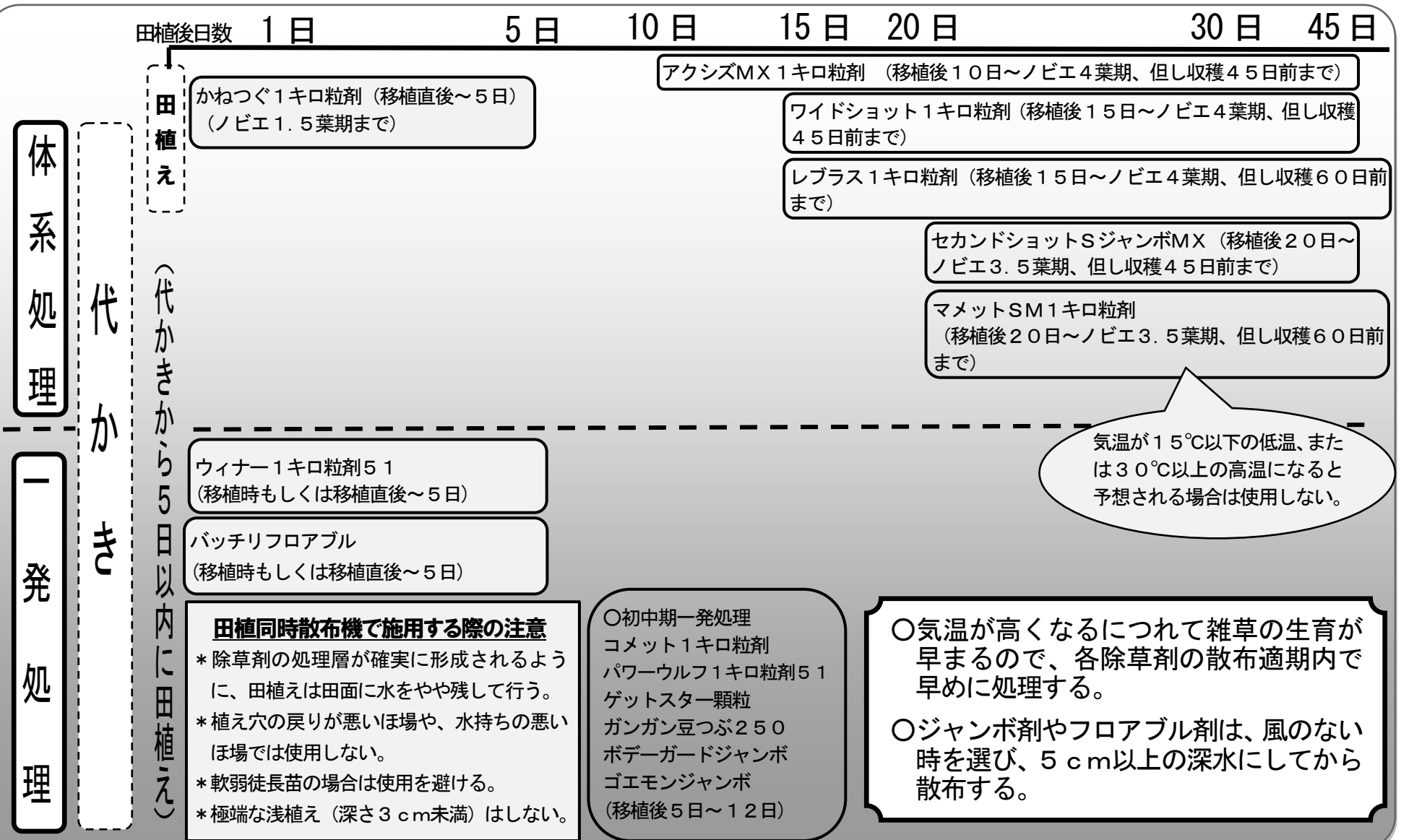
- 栽植密度は70株/坪**セットを基本とし、**植付本数は3～4本/株**、**植付深さは3cm**に調整する。
- 基肥量は、品種や土壌条件、前作などに応じた施肥基準を遵守する。
- 田植え前に目標とする量で確実に施肥できるよう、事前に施肥量の確認を行う。
- 活着までは**5～6cm**程度のやや深水にして植え傷みを防ぎ、田水温を確保する。
- 活着後は**3cm**程度の浅水にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。



5. 除草剤散布は遅れずに実施

～使用基準を遵守し、ムラなく均一に適期散布～

- 除草剤の散布前に、畦畔や排水口から漏水していないことを確かめるとともに、漏水箇所を手直しする。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間**は「**止水管理**」にして、落水しない。
- 散布後5日間**は**湛水状態**を保つ。
- 雑草が多い場合は、「**体系処理**」で除草効果をさらに高めましょう。



★育苗や本田作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう。

水稻情報第3号の発行は5月29日(予定)